

<令和4年度 2・3年次生履修科目>

IV. 専 門 分 野 II

THE UNIVERSITY OF CHICAGO

THE UNIVERSITY OF CHICAGO

※「看護の展開セット」の内容は、次頁を参照してください。

科目	担当者	テキスト：書名・著者・発行所	参考文献：書名・著者・発行所
成人看護の展開Ⅰ	松永 貴子 梶山 木綿 松本 理恵	1) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 「呼吸器」 医学書院 2) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 「循環器」 医学書院 3) 系統看護学講座 別巻 「クリティカルケア看護学」 医学書院 4) 系統看護学講座 別巻 「臨床放射線医学」 医学書院	1) 看護の展開セット 2) 看護の生理学 (3) 人間をみる看護の視点
	放射線医師	1) 系統看護学講座 別巻 「臨床放射線医学」 医学書院	
成人看護の展開Ⅱ	宮田 芳衣 河内 友子	1) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 「消化器」 医学書院 2) 系統看護学講座 別巻 「臨床外科看護総論」 医学書院 3) 系統看護学講座 別巻 「臨床外科看護各論」 医学書院	1) 看護の展開セット
成人看護の展開Ⅲ	脇田由紀子 松永しのぶ	1) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 「耳鼻咽喉科」 医学書院 2) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 「運動器」 医学書院 3) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 「腎・泌尿器」 医学書院 4) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 「女性生殖器」 医学書院	1) 看護の展開セット
	静岡病院 医師	1) 系統看護学講座 別巻 「臨床外科看護総論」 医学書院 2) 系統看護学講座 別巻 「臨床外科看護各論」 医学書院	
成人看護の展開Ⅳ	河内 友子 中村 泉	1) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 「内分泌・代謝」 医学書院 2) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 「アレルギー 膠原病 感染症」 医学書院 3) 糖尿病食事療法のための食品交換表 4) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 「耳鼻咽喉」 医学書院	1) 看護の展開セット
		5) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 「血液・造血器」 医学書院 6) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 「皮膚」 医学書院	1) 看護の展開セット
	糖尿病認定 看護師	1) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 「内分泌・代謝」 医学書院	
	喉頭摘出 患者会 会員		1)「新しい言葉の命を得て」 池上 登 静岡新聞社 2)「食道発声の手引き」 高藤 次夫 銀鈴会

専門分野Ⅱ 成人看護学 成人特殊技術演習 (成演成) 使用テキスト・参考文献

※「看護の展開セット」・「特殊技術演習セット」は、表の末にあります。

科目	担当者	テキスト：書名・著者・発行所	参考文献：書名・著者・発行所
演習A ステップアップ演習	松永しのぶ 臨地実習 指導者	※シナリオを理解するための学習に必要な教科書等は、各自準備のこと。	
演習B 成人看護の展開 Ⅰ	梶山 木綿	1) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 「呼吸器」 医学書院 2) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 「循環器」 医学書院 3) 系統看護学講座 別巻 「クリティカルケア看護学」 医学書院 4) 看護の展開セット 5) 特殊技術演習セット	
演習B 成人看護の展開 Ⅱ	宮田 芳衣	1) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 「消化器」 医学書院 2) 系統看護学講座 別巻 「臨床外科看護総論」 医学書院 3) 系統看護学講座 別巻 「臨床外科看護各論」 医学書院 4) 看護の展開セット 5) 特殊技術演習セット	
	皮膚・排泄ケア 認定看護師	1) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 「消化器」 医学書院	
演習B 成人看護の展開 Ⅲ	松永しのぶ	1) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 「運動器」 医学書院 2) 特殊技術演習セット	
演習B 成人看護の展開 Ⅳ	中村 泉	1) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 「内分泌・代謝」 医学書院 2) 糖尿病食事療法のための食品交換表 3) 看護の展開セット 4) 特殊演習セット	

看護の展開セット

- | | | |
|------------------|-------|------|
| 1) 「ナースが視る人体」 | 薄井坦子 | 講談社 |
| 2) 「ナースが視る病氣」 | 薄井坦子 | 講談社 |
| 3) 「健康の地図帳」 | 大久保昭行 | 講談社 |
| 4) 「からだの地図帳」 | 佐藤 達夫 | 講談社 |
| 5) 「病氣の地図帳」 | 山口 和克 | 講談社 |
| 6) 系統看護学講座 がん看護学 | | 医学書院 |

特殊技術演習セット

- | | | |
|------------------------|--------|----------|
| 1) 「写真でわかる臨床看護技術 ②」 | 村上美好 他 | インターメディカ |
| 2) 「フィジカルアセスメントガイドブック」 | 山内豊明 | 医学書院 |

必修科目(2)

科目	成人看護学 成人看護の展開 I	単位	1	時間数	30	開講期	2年 前期	担当者	看護師:松永 貴子 看護師:梶山 木綿 看護師:松本 理恵 放射線科医師・技師
----	--------------------	----	---	-----	----	-----	----------	-----	--------------------------------------------------

講義の概要および学習目標	<p>成人期にあり、生命を維持する働きに障害のある患者の看護について学ぶ。 本科目では生命を維持する働きとして循環器疾患・呼吸器疾患を取り上げる。人間は生命を維持する器官が障害されると心身共に危機状態に陥る。「苦しい」「死のイメージ」に直結する思いを受け止めたり、早急に対応する必要性を理解し、その援助の内容について考える。</p> <p>循環器疾患患者の事例では急性期にある患者を取り上げる。危機を脱した後も治癒することはないが、認識や生活を調整し治療を継続することでQOLを維持することができる健康障害である。成人期にある患者の特徴をふまえ、今までの生活を振り返って対象を理解し、「どうしたらその状態を繰り返したり、悪化しないのか、セルフケアの方法を患者と共に考える看護」について学ぶ。</p> <p>呼吸器疾患(肺がん)患者の事例では、終末期にある患者を取り上げる。その人らしく最期まで過ごせるよう「患者が決定した意志を尊重し、治療が継続できるような看護」などについて学ぶ。</p> <p>放射線療法について、放射線科医師より専門的な知識を学ぶ。</p> <p>《学習目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 成人期にあり生命を維持する働きが障害された対象を理解する 2 生活・認識の調整を行いセルフケア行動を促すための看護について考える 3 放射線療法について理解する
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生命を維持する働きとは(循環・呼吸の切っても切れない関係) 2. 心筋梗塞患者の看護 3. 不整脈患者の看護 4. 肺がん患者の看護 5. 放射線治療を受ける患者の看護 6. 大動脈解離患者の看護
評価法	出席状況、提出物・授業時間内に実施する小テスト・筆記試験を総合して評価します。
受講生への要望	受講に際しては、事前・事後学習、関連既習科目の学習が必要とされます。 臨地実習へつなげるためにはここでの学習を更に深めるための自己学習が重要となります。 主体的な学習姿勢を期待します。

必修科目(3)

科目	成人看護学 成人看護の展開Ⅱ	単位	1	時間数	30	開講期	2年前期	担当者	看護師:宮田 芳衣 看護師:河内 友子
----	-------------------	----	---	-----	----	-----	------	-----	------------------------

講義の概要および学習目標	<p>食物を消化・吸収・排泄する働きに障害をもつ対象を理解し、状況に応じた看護ができるための基礎的能力を身につける。</p> <p>生物体は、自然界から存在に不可欠な物質を体内に取り入れ、不要物を外界に排泄している。外界から摂取した栄養物は、咀嚼され消化酵素の働きで細かく分解されて、消化管壁から血中に吸収され、人間に必要な物質に作り替えられ、不要になったものは便として排泄される。</p> <p>ここでは、消化の役割のある胃粘膜のつくりかえに障害のある患者、癌細胞の増殖により食物を摂取、消化する機能に障害のある患者、不要物を排泄する経路に障害のある患者の看護の原則、手術前・手術後・退院に向けての援助について学習する。</p> <p>また、新しい排泄経路となり、自宅療養をする患者の看護について、皮膚・排泄ケア認定看護師より、専門的な知識と技術を学ぶ。</p> <p>《学習目標》</p> <p>食物を消化・吸収・排泄する働きに障害をもつ対象を理解し、状況に応じた看護が出来るための基礎的能力を身につける。また、排泄経路を変更し、自宅療養をする患者の看護について、専門的な知識と技術を学ぶ。</p>
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 食物を消化・吸収する働きとは 2. 胃粘膜細胞のつくりかえに障害のある患者の看護 <ul style="list-style-type: none"> ・ 胃潰瘍患者の看護 3. 癌細胞の増殖により食物を送り込むはたらきに障害のある患者の看護 <ul style="list-style-type: none"> ・ 食道癌患者の看護 4. 癌細胞の増殖により食物を消化する働きに障害のある患者の看護 <ul style="list-style-type: none"> ・ 胃癌患者の事例展開 5. 癌細胞の増殖により不要物を排泄する経路に障害のある患者の看護 <ul style="list-style-type: none"> ・ 直腸癌患者の事例展開 6. 栄養を吸収する働きに障害のある患者の看護 <ul style="list-style-type: none"> ・ クロウン病患者の看護
評価法	<p>出席状況と授業態度 課題提出状況 筆記試験 レポート</p>
受講生への要望	<p>受講に際しての事前・事後学習、関連既習科目の学習が必要とされます。臨地実習へつなげるためにはここでの学習を更に深めるための自己学習が重要となります。主体的な学習姿勢を期待します。</p>

必修科目(4)

科目	成人看護学 成人看護の展開Ⅲ	単位	1	時間数	30	開講期	2年 前期	担当者	看護師：松永 しのぶ 看護師：脇田 由紀子 医師：川守田 啓介 橋本 洋右・小林 敏樹
----	-------------------	----	---	-----	----	-----	----------	-----	------------------------------------------------------

講義の概要および学習目標	<p>この科目では、感覚器、運動器、性生殖器に健康障害を持つ患者の看護を事例を通して学習する。青年期や壮年期にある人が、社会生活を送りながら健康障害と向き合うとはどういふことかを考える。主に手術療法を必要とする患者の看護を学ぶ。</p> <p>《学習目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 外界と個の不応現象による障害を持つ対象を理解し、状況に応じた看護が出来るための基礎的能力を身につける 2 行動範囲を拡大する働きに障害を持つ対象を理解し、状態に応じた看護が出来るための基礎的能力を身につける 3 生活をつくりだす働きに障害を持つ対象を理解し、状態に応じた看護が出来るための基礎的能力を身につける 4 生命の連続性を維持する働きの障害について理解し、状態に応じた看護が出来るための基礎的能力を身につける 5 外科的治療(手術療法)をうける患者の周術期全過程に対する看護について学習する
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 外界と個の不応現象による障害のある人の看護 <ul style="list-style-type: none"> ・ メニエール病患者の看護 2. 行動範囲を拡大する働きに障害のある人の看護 <ul style="list-style-type: none"> ・ 椎間板ヘルニア患者の看護 3. 生活をつくりだす働きに障害のある人の看護 <ul style="list-style-type: none"> ・ 脊髄損傷患者の事例展開 4. 生命の連続性を維持する働きに障害のある人の看護 <ul style="list-style-type: none"> ・ 精巣腫瘍患者の看護 ・ 乳がん患者の看護 ・ 子宮がん患者の事例展開 5. 手術療法 <ul style="list-style-type: none"> ・ 手術侵襲と生体の反応 ・ 術後経過の概略 ・ 外科栄養療法 ・ 麻酔法 ・ 酸素療法と機械的人工換気 ・ 輸血療法 ・ 術後合併症と発症時の対応等
評価法	筆記試験 課題提出状況 出席状況
受講生への要望	<p>受講に際して事前・事後学習、関連既習科目の学習が必要とされます。臨地実習へつなげるためには、ここでの学習を更に深めるための自己学習が重要です。事例展開の授業では、次回までの課題を確実に進めたうえで授業に参加する主体的な学習姿勢を期待します。</p>

必修科目(5)

科目	成人看護学 成人看護の展開Ⅳ	単位	1	時間数	30	開講期	2年 後期	担当者	看護師:河内 友子 看護師:中村 泉 糖尿病認定看護師 喉頭摘出患者会会員 日本赤十字社講師
----	-------------------	----	---	-----	----	-----	----------	-----	------------------------------------------------------------

講義の概要および学習目標	<p>血液は、運搬と排泄・体温調節・酸塩基平衡維持・体液量維持など様々な働きを持っている。そして、血液は全身を循環しているために、全身の組織や臓器に大きく影響を及ぼし、生命の維持に重要な役割を担っている。そのことを理解したうえで、血液をつくりだす働き の障害と、血液の成分の乱れ、免疫機構の乱れによる障害、ホルモンによる調節機構の障 害を学ぶ。そして、その障害をもつ患者の看護について事例を展開し学んでいく。</p> <p>また、感覚器系に障害を持つ患者を理解するため、障害を持ちながら社会で活躍している 人々の体験談や闘病記を紹介している。外界と個の不応現象による障害を持つ対象を 理解し、身体障害について理解を深めるとともに、状況に応じた看護が出来るための基礎 的能力として、障害に対する回復への援助(自立に向けた援助)について考える。</p> <p>この科目では、成人期である患者がセルフケアをしながら生活していくことはどういうことか を考える機会とする。</p> <p>《学習目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 統一体を支える血液の破綻による障害を持つ対象を理解し、状況に応じた看護が できるための基礎的能力を身につける 2 外界と個との不応現象による障害を持つ対象を理解し、状況に応じた看護が できるための基礎的能力を身につける
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 造血機能に障害のある患者の看護 <ul style="list-style-type: none"> ・ 急性骨髄性白血病患者の事例展開 ・ 血液の取り扱い 2. 代謝に障害のある患者の看護 <ul style="list-style-type: none"> ・ II型糖尿病患者の事例展開 3. 免疫機構に障害のある患者の看護 <ul style="list-style-type: none"> ・ 全身性エリテマトーデスの患者の看護 4. ホルモンによる調節機構に障害のある患者の看護 <ul style="list-style-type: none"> ・ 甲状腺機能亢進症患者の看護 5. 外界と個の不応現象による障害のある人の看護 <ul style="list-style-type: none"> ・ 感覚器とは/感覚器の構造と機能 /感覚機能の変化と喪失 ・ 当事者の体験を聴くことで喉頭癌患者の看護を考える 6. 筆記試験
評価法	<p>出席状況と授業態度 課題の提出状況および成果 筆記試験</p>
受講生への要望	<p>受講に際して事前学習・事後学習、関連既習科目の学習が必要となります。 事例展開の授業では、課題を確実に進めたうえで授業に参加する主体的な学習姿勢を 期待します。</p> <p>喉頭摘出患者の体験を聴くことで、障害をもつ対象のセルフケアへの働きかけと精神面の 理解、周囲(家族)への支援について学んでください。</p>

必修科目(6-1)

科目	成人看護学 成人特殊技術演習 A	単位		時間 数	15 / 45	開 講 期	2年 前期	担 当 者	看護師:松永 しのぶ 他学内教員
----	------------------------	----	--	---------	---------------	-------------	----------	-------------	---------------------

講義の概要および学習目標	<p>臨床ではさまざまな状況におかれている患者と出会う。学生が、実習で出会う患者への行為も看護行為とならなければならない。患者のおかれている状況を理解して、必要な看護実践をしていくためには、現実にあわせて基本技術を使うときの判断過程を学んだり、現時点での自己の基本技術の習得レベルを知る必要がある。</p> <p>構成は、前期に集中して開講する演習Aと、年間を通して成人看護学、老年看護学の進捗にあわせて開講する演習Bの構成とから成り立つ。演習Aの名称は、「基礎看護技術ステップアップ演習」である。この演習は、あらかじめ設定された事例患者について、グループで患者理解をした上で、患者に適した看護技術方法を考え、実技練習をし、模擬患者に対して看護実践する。演習の場では、臨床との連携を図り、実習病院の臨床指導者に参加していただく。臨床に即した助言を受けることで、現時点での自己の基本技術習得レベルを知り、実習に向けた課題を明確にする。</p> <p>《学習目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 現実に合わせて基本技術を使う時の判断過程を学ぶ 2 現時点での自己の基本技術レベルを知る
講義内容	<p>1講義目 演習のオリエンテーション・シナリオワーク</p> <p>2講義目 学習発表会</p> <p>3講義目 グループごとの実技演習</p> <p>4・5講義目 グループごとの実技演習</p> <p>6・7講義目 実技演習発表会・全体討議</p>
評価法	<p>成人特殊技術A30点、特殊技術B70点と合わせて評価する。ステップアップ演習の準備段階、グループワーク、当日の取り組み、実施後のレポートを評価する。</p>
受講生への要望	<p>グループ学習となるので、グループの中での役割や責任を果たすことも課題です。健康管理をして、演習には意欲的に取り組むことを期待します。</p>

必修科目(6-2)

科目	成人看護学 成人特殊技術演習 B	単位		時間 数	30 45	開 講 期	2年 前期	担 当 者	学内教員・認定看護師 理学療法士・臨床工学技士
講義の概要および学習目標	<p>臨床では基本技術のみでなく、健康障害に応じた特殊技術も多い。行われているその技術の知識や、正しい方法を学んでおく必要がある。この科目では、これらのことを演習を通して学ぶことを目的としている。</p> <p>構成は、前期に集中して開講する演習Aと、年間を通して成人看護学、老年看護学の進度にあわせて開講する演習Bの構成とから成り立つ。演習Bでは、各授業ごと異なる実技演習を外部講師を含む成人看護学、老年看護学の担当で演習を行う。成人看護学・老年看護学の進度に合わせて開講する。</p>								
講義内容	<p>成展Ⅰ：モニタリング、12誘導心電図、胸部(循環呼吸)のフィジカルアセスメント 成展Ⅱ：ストマケア、内視鏡検査時の看護、術後のドレーン管理、 腹部のフィジカルアセスメント、輸液ラインの入った患者の寝衣交換 成展Ⅲ：褥瘡予防ケア、体位交換、意識レベルの観察、麻痺・硬縮・関節可動域・筋力テスト 成展Ⅳ：自己血糖測定、インスリン自己注射 老展Ⅰ：嚥下機能に障害のある患者の看護(嚥下体操・経管栄養)、口腔内の視診・嚥下意識レベルの観察、麻痺・拘縮・反射、頭部の視診・触診、移動 関節可動域訓練、麻痺・拘縮・関節可動域・筋力テスト、四肢関節の視診・触診 老展Ⅱ：呼吸器リハビリテーションを受ける患者の看護、気管内吸引、吸入医療機器を使用するための基礎知識、構造と原理・安全対策 (NIPPV・パルスオキシメーター) 老展Ⅲ：牽引療法を受ける患者の看護・尿道留置カテーテルを必要とする患者の看護</p> <p>詳細は、オリエンテーションおよび、各科目ごとのカリキュラムや「成人看護学・老年看護学サブノート」を参照すること。</p>								
評価法	<p>成人特殊技術A30点、特殊技術B70点と合わせて評価する。 成人看護の展開Ⅰ～Ⅳ、老年看護の展開Ⅰ～Ⅲの計7科目あるため、10点×7に配点を細分する。 看護の展開終了時に成人特殊技術演習の試験(10点分)を同時に行う。レポートの場合もある。</p>								
受講生への要望	<p>欠席をすると体験できない技術演習があります。健康管理をして、演習には意欲的に取り組むことを期待します。 講義時間が少ないものは事前に予習をして臨んでほしい。 基礎成人実習室にある医療機器には実際に触れて学びを深めてほしい。</p>								

※ 「看護の展開セット」の内容は、次項を参照してください。

科目	担当者	テキスト：書名・著者・発行所	参考文献：書名・著者・発行所
老年看護の展開Ⅰ	矢野 玲枝 認知症看護 認定看護師	1) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 「脳・神経」 医学書院 2) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 「老年看護 病態・疾患論」 医学書院	1) 看護の展開セット
	山口 一世	1) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 「アレルギー 膠原病 感染症」 医学書院	1) 看護の展開セット
	理学療法士 作業療法士	1) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 「脳・神経」 医学書院 2) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 「老年看護 病態・疾患論」 医学書院 3) 系統看護学講座 別巻 「リハビリテーション看護」 医学書院	1) 看護の展開セット
	摂食・嚥下 障害看護 認定看護師	1) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 「脳・神経」 医学書院 2) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 「老年看護 病態・疾患論」 医学書院 3) 系統看護学講座 別巻 「リハビリテーション看護」 医学書院 4) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 「耳鼻咽喉科」 医学書院	1) 看護の展開セット
老年看護の展開Ⅱ	松永 貴子 松永しのぶ 松本 理恵 呼吸理学療法士	1) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 「呼吸器」 医学書院 2) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 「循環器」 医学書院 3) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 「腎・泌尿器」 医学書院 4) 系統看護学講座 別巻 「クリティカルケア看護学」 医学書院	1) 看護の展開セット 2) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 「老年看護学」 医学書院 3) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 「老年看護 病態・疾患論」 医学書院
	透析看護 認定看護師	1) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 「腎・泌尿器」 医学書院	1) 看護の展開セット
老年看護の展開Ⅲ	杉山 加苗 山口 一世 松永しのぶ 河内 友子	1) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 「運動器」 医学書院 2) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 「内分泌・代謝」 医学書院 3) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 「消化器」 医学書院 4) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 「腎・泌尿器」 医学書院 5) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 「眼」 医学書院	1) 看護の展開セット 2) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 「老年看護 病態・疾患論」 医学書院
	緩和ケア認定 看護師	1) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 「消化器」 医学書院 2) ナーシング・グラフィカ 「緩和ケア」 メディカ出版	

必修科目(8)

科目	老年看護学 老年看護の展開 I	単位	1	時間数	30	開講期	2年 前期	担当者	看護師・矢野 玲枝・山口 一世 摂食・嚥下障害看護認定看護師 認知症看護認定看護師 理学療法士・作業療法士
----	--------------------	----	---	-----	----	-----	----------	-----	----------------------------------------------------------------

講義の概要および学習目標	<p>脳・神経疾患患者は、急性期には意識障害・呼吸障害・循環障害などを引き起こし、患者は生命の危機にさらされる。生命危機を脱しても、運動・感覚・嚥下・排泄・高次脳などの機能障害を残し、これまでの生活が一変することもある。そこで、看護は、脳神経の働きに障害をもつ対象を理解できるよう、気づきトレーニングとして観察やコミュニケーション方法を学んでいく。そして、回復過程に合わせた看護実践がおこなえることを目指して基礎的能力を学ぶ。</p> <p>膠原病は病状に個人差があり、症状にも波がある。そのため、看護の役割は症状と共存しながら、できるだけ普段通りの生活を送ることを目標とし、セルフケアを支援することである。この科目では高齢の慢性関節リウマチ患者の事例を通して、長期に及ぶ経過の中で徐々に関節に変形や拘縮をきたしながらも、安静と運動のバランスを取り身体機能障害の程度に応じて生活している対象を理解し、その人らしい日常生活が送れるよう支援するための看護を学ぶ。</p> <p>《学習目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 人間を統合する脳の働きに障害のある対象の理解と健康障害の段階に応じた看護実践ができるよう、脳の働きと障害についての知識を基に、状態に応じた看護を学ぶ 2 生活をつくりだす働きに障害のある対象の理解と、身体機能障害の程度に応じた看護実践ができるよう、知識を基に、生活を維持するための看護について学ぶ
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間を統合する脳の働きに障害のある人の看護 <ul style="list-style-type: none"> ・ くも膜下出血患者の事例展開 (8時間) ・ 脳梗塞患者の事例展開 (6時間) ・ 理学療法の理解および看護 (2時間) ・ 作業療法の理解および看護 (2時間) ・ 摂食嚥下機能の理解および看護 (2時間) ・ 認知症患者の看護 (2時間) 2. 生活をつくりだす働きに障害のある人の看護 <ul style="list-style-type: none"> ・ 関節リウマチ患者の事例展開 (6時間) 3. 終了試験とまとめ (2時間)
評価法	<p>グループワークの取り組み 課題提出状況・課題内容 筆記試験</p>
受講生への要望	<p>既習科目と関連させて学習することが大切です。</p> <p>人間を統合する脳の働きに障害のある人の看護では、脳障害により失われた機能が回復する可能性を秘めているという人間のもつ力を促進することが重要となります。対象の反応がある・ないにかかわらず、看護者としてどのようにかかわれたらよいのかを考え、主体的に学んでほしいです。</p> <p>また、生活をつくりだす働きに障害のある人の看護では、身体機能障害に応じた生活を助ける自助具の活用を考える機会にもなります。自己学習した内容を反映させて理解につなげ、グループワークでお互いの考えを伝え合うことから、患者の生活を意識した看護のあり方についてあらたな学びを体験することができます。障がいのある患者さんをイメージしながら学習を進めましょう。</p>

必修科目(9)

科目	老年看護学 老年看護の展開Ⅱ	単位	1	時間 数	30	開講 期	2年 後期	担 当 者	看護師:松永 貴子 看護師:松永しのぶ 看護師:松本 理恵 透析看護認定看護師 呼吸理学療法士
----	-------------------	----	---	---------	----	---------	----------	-------------	-------------------------------------------------------------

講義の概要および学習目標	<p>生物体は、自然界から生きていくために不可欠な酸素などの物質を体内に取り入れ、不要物を外界に排泄している。その役割を担うのが呼吸や腎臓である。そして、生命を維持するためそれらを循環させることで生命を維持している。</p> <p>老年期にある患者が呼吸、循環、腎臓の機能の不可逆的な変化による健康障害を持ち、生活の調整をしながら慢性的な経過をたどる患者の状態に合わせた看護について学ぶ。</p> <p>《学習目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 人間が生命を維持するための直接的な機能を担う呼吸・循環のしくみと障害についての知識を基に、その働きに障害を持つ対象を理解し、状態に応じた看護を学ぶ 2 内部環境を維持するための役割を担う腎臓の仕組みと障害についての知識を基に、その働きに障害を持つ対象を理解し、状態に応じた看護を学ぶ
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生命を維持する働きに障害のある患者の看護 <ul style="list-style-type: none"> ・ 僧房弁閉鎖不全症患者の事例展開 ・ 慢性閉塞性肺疾患患者の事例展開 2. 内部環境を維持する働きに障害のある患者の看護 <ul style="list-style-type: none"> ・ 慢性腎不全患者の事例展開・透析療法について 3. 呼吸リハビリテーション
評価法	<p>出席状況、授業への参加態度、課題提出状況・筆記試験を総合評価とします。</p>
受講生への要望	<p>受講に際しての事前・事後学習、関連既習科目の学習が必要とされます。臨地実習へつなげるためにはここでの学習を更に深めるための自己学習が重要となります。主体的な学習姿勢を期待します。</p> <p>授業の中で基礎知識に戻るとき解剖生理学や病態生理学の教科書を使用することがあります。</p> <p>必要な人は常に準備しておいてください。</p>

必修科目(10)

科目	老年看護学 老年看護の展開Ⅲ	単位	1	時間数	30	開講期	2年後期	担当者	看護師: 杉山 加苗・山口 一世 看護師: 河内 友子・松永 しのぶ 緩和ケア認定看護師
----	-------------------	----	---	-----	----	-----	------	-----	----------------------------------------------------

講義の概要および学習目標	<p>すべての生物体は自然界から生きていくために不可欠な物質を体内にとり入れ不要物を外界に排泄している。そして人間は固有の内部環境を作り外界との間に独特な関係を結んでいる。この科目では、外界から摂取した栄養素を細胞のつくりかえに必要な物質として代謝する肝臓や、消化酵素やホルモンを分泌する膵臓が障害されたことでおこる身体的・精神的・社会的問題を、事例を展開しながら学習する。</p> <p>また、加齢に伴う身体機能の変化をふまえ、運動器、感覚器、排泄機能を障害されたことで起こる身体的・精神的・社会的問題を事例展開をしながら学習する。</p> <p>《学習目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 内部環境を維持する働きに障害を持つ対象の理解と、健康の段階に応じた看護ができるための基礎的な能力を身につける 2 老年期の発達課題と、老化に伴う変化を理解し、運動器・感覚器・排泄機能の健康障害を持つ対象への看護ができるための基礎的な能力を身につける
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 行動範囲を拡大する働きに障害のある人の看護 <ul style="list-style-type: none"> ・ 大腿骨頸部骨折患者の事例展開 2. がん細胞の増殖により膵臓の働きが障害された人の看護 緩和ケアを中心に理解する <ul style="list-style-type: none"> ・ 膵臓がん患者の事例展開 3. 内部環境を維持する働きに障害のある人の看護 <ul style="list-style-type: none"> ・ 肝硬変の患者の事例展開 4. 生命の連続性を維持する働きに障害のある人の看護 <ul style="list-style-type: none"> ・ 前立腺肥大症の患者の看護 5. 外界と個の不適合現象による障害のある人の看護 <ul style="list-style-type: none"> ・ 白内障患者の看護
評価法	<p>筆記試験 講義期間中の課題 出席状況と授業態度</p>
受講生への要望	<p>受講に際して事前・事後学習、関連既習内容の復習が必要とされます。 臨地実習へつなげるためには、ここでの学習を更に深めるための自己学習も重要です。 事例展開の授業では、次回までの課題を確実に進めたうえで授業に参加する主体的な学習姿勢を期待します。</p>

必修科目(12)

科目	小児看護学 小児看護概論Ⅱ	単位	1	時間数	15	開講期	2年前期	担当者	看護師:山口 一世
----	------------------	----	---	-----	----	-----	------	-----	-----------

講義の概要および学習目標	<p>疾病や健康障がいによって生じる症状や生活環境の変化が子どもや家族に及ぼす影響について、健康の段階や発達段階を考えながら理解する。その上で、子どもの病気の理解に合わせたかかわりや表現を助けるための看護の基本を学ぶ。また、健康障がいにより医療やケアの必要な小児と家族の実際の生活を知る機会をもち理解を深める。成長発達の特徴をイメージしながら健康障がいのある小児と家族への発達段階に合わせたコミュニケーションや説明方法を学習する。</p> <p>《学習目標》 健康上の問題で生じる小児と家族への影響とその支援について学ぶ。また、発達段階に合わせたコミュニケーションの基本を学ぶ</p>
--------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの病気の理解の特徴 2. 外来を受診する小児と家族の理解 3. 急性症状、慢性症状のある小児と家族の理解 4. 入院をする小児と家族の理解 5. 小児の発達に合わせたかかわり方;コミュニケーション技術 6. 小児の発達に合わせたかかわり方;プレパレーション 7. 健康障がいのある小児と家族の理解 8. 筆記試験
------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価法	出席状況、課題(個人・グループワーク)への取り組み姿勢、グループ内評価、グループ別評価、筆記試験を総合して評価する。
-----	------------------------------------------------------------

受講生への要望	小児看護概論Ⅱでは健康障がいを持つ小児と家族への理解を深めていきます。小児看護におけるコミュニケーションを学ぶ際にはグループワークも取り入れていきます。積極的に参加し小児看護の基礎を深めていきましょう。
---------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------

テキスト	<p>書名/著者名/発行所</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ナーシンググラフィカ 小児看護学①「小児の発達と看護」 /中野 綾美 他/メディカ出版 2) 新改訂写真でわかる小児看護技術アドバンス/インターメディカ /中村 友彦 他/メディカ出版 3) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学②「小児臨床看護各論」 /奈良間 美保 他/医学書院 4) こどもの病気の地図帳/鴨下 重彦 他/講談社
------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

参考文献	<p>書名/著者名/発行所</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 小児看護学② 健康障がいをもつ小児の看護/松尾 宜武他/メヂカルフレンド社 2) 小児看護学概論 子どもと家族に寄り添う援助/二宮 啓子 他/南江堂
------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

必修科目(13)

科目	小児看護学 小児看護の展開 I	単位	1	時間数	15	開講期	2年前期	担当者	看護師: 山口 一世 看護師: 中村 泉 臨床看護師
----	--------------------	----	---	-----	----	-----	------	-----	----------------------------------

講義の概要および学習目標	<p>健康障害の種類については、解剖生理学、病理学などの知識をもとに、病態生理と治療Ⅳ(小児疾患)で学んだ小児の健康障害と結びつけながら小児がその病気を体験している事実をみつめる。そして、小児看護概論Ⅰ・Ⅱで学んだ子どもの権利、一般的な成長・発達、健康障がいのある小児と家族への理解と看護の基本をもとに、事例を用いて個別の対象に応じた看護を学習する。</p> <p>《学習目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 発達途上にある小児にとって健康障害や入院・治療を受けることによって起こる諸問題を理解する。さらに、その小児の健康の段階に応じた看護と家族への対応について学ぶ 2 小児期の特徴に合わせた看護援助技術の基本を学ぶ
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生命を維持する働きの障害 <ul style="list-style-type: none"> ・ 気管支喘息の小児と家族への看護 2. 食物を消化・吸収する働きの障害 <ul style="list-style-type: none"> ・ 乳児下痢症の小児と家族への看護 3. 小児に起こり得る事故と看護 4. 生活をつくりだす働きの障害 <ul style="list-style-type: none"> ・ 上腕骨骨折の小児と家族への看護 5. 外界と個との不応現象による障害 <ul style="list-style-type: none"> ・ 熱傷の小児と家族への看護 (臨床看護師) 6. 7. 小児に必要な看護技術 8. 筆記試験
評価法	出席状況、課題(個人・グループワーク)への取り組み姿勢、グループ内評価、グループ別評価、筆記試験を総合して評価する。
受講生への要望	<p>事例に基づき、その発達段階の特徴を想起しながら看護を考えていきます。成長・発達の復習をして授業に臨んでください。また、本科目で取りあげる健康障害の種類は、比較的皆さんも幼少期に経験したことがあるようなものも含まれています。自分の子どもの頃の受診や入院体験があれば思い出しながら授業とつなげていってください。また、臨床看護師からの講義を2時間設けています。実際に入院している小児の貴重な事例を聞きながら、イメージを膨らませて、自らの看護に活かしてください。小児看護技術ではグループ学習をおこないます。看護の方法で学んだことにプラスして、小児期の発達段階の特徴に合わせた技術を提供するにはどのような知識が必要なのかを資料にまとめ、グループ毎にプレゼンテーションをおこない、クラス全体で知識を共有していきます。</p>
テキスト	<p>書名／著者名／発行所</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ナーシンググラフィカ 小児看護学①「小児の発達と看護」 ／中野 綾美 他／メディカ出版 2) 新改訂写真でわかる小児看護技術アドバンス／インターメディカ ／中村 友彦 他／メディカ出版 3) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学②「小児臨床看護各論」 ／奈良間 美保 他／医学書院 4) こどもの病気の地図帳／鴨下 重彦 他／講談社
参考文献	<p>書名／著者名／発行所</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 小児看護学② 健康障がいをもつ小児の看護／松尾 宜武他／メヂカルフレンド社 2) 小児看護学概論 子どもと家族に寄り添う援助／二宮 啓子 他／南江堂

必修科目(14)

科目	小児看護学 小児看護の展開Ⅱ	単位	1	時間数	30	開講期	2年 後期	担当者	看護師: 矢野 玲枝 看護師: 山口一世 看護師: 中村 泉 臨床看護師		
講義の概要および学習目標	<p>小児看護の目的は、さまざまな健康レベルにある子どもたちに対する必要な援助を行うことである。本科目では、健康障害のある小児の事例やケーススタディにより対象の健康の段階やその時の状況に合わせた看護を考えていく。小児のイメージをもつためには、小児看護概論Ⅰ・Ⅱや病態生理と治療Ⅳ(小児疾患)で学んできた既習知識を活用することが必須である。そのため、既習知識を想起したうえで事例の小児が病気を体験している事実をみつめていくことが求められる。事例の小児を実習で受けもつと仮定し、より具体的な場面をイメージしながら対象の状態や状況に合わせた看護実践を目指して学習する。</p> <p>《学習目標》 小児が健康障害により入院・治療を受けることによる諸問題を理解する。さらに、その小児の発達や健康の段階に応じた看護を考え、学ぶ。</p>										
講義内容	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 1. 行動範囲を拡大する働きの障害 2. 人間を統合する脳の働きの障害 3. 人間を統合する脳の働きの障害 4. 生命の連続性を維持する働きの障害 5. 6. 食物を消化・吸収する働きの障害 7. 生命を維持する働きの障害 8. 生命の連続性を維持する働きの障害 9. 10. 生命を維持する働きの障害 11. 12. 内部環境を維持する働きの障害 13. 統一体を支える血液の破綻による障害 14. 終末期の小児と家族への看護 15. 筆記試験 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>紫斑病の小児と家族への看護 てんかんの小児と家族への看護 (臨床看護師) 発達障害のある小児と家族への看護 口唇口蓋裂の小児と家族への看護 (臨床看護師) * 鎖肛の小児と家族への看護 ファロー四徴症の小児と家族への看護 (臨床看護師) ダウン症候群の小児と家族への看護 (臨床看護師) * 川崎病の小児と家族への看護 * ネフローゼ症候群の小児と家族への看護 急性白血病の小児と家族への看護 (臨床看護師)</p> <p style="text-align: center;">*は事例展開</p> </td> </tr> </table>									<ol style="list-style-type: none"> 1. 行動範囲を拡大する働きの障害 2. 人間を統合する脳の働きの障害 3. 人間を統合する脳の働きの障害 4. 生命の連続性を維持する働きの障害 5. 6. 食物を消化・吸収する働きの障害 7. 生命を維持する働きの障害 8. 生命の連続性を維持する働きの障害 9. 10. 生命を維持する働きの障害 11. 12. 内部環境を維持する働きの障害 13. 統一体を支える血液の破綻による障害 14. 終末期の小児と家族への看護 15. 筆記試験 	<p>紫斑病の小児と家族への看護 てんかんの小児と家族への看護 (臨床看護師) 発達障害のある小児と家族への看護 口唇口蓋裂の小児と家族への看護 (臨床看護師) * 鎖肛の小児と家族への看護 ファロー四徴症の小児と家族への看護 (臨床看護師) ダウン症候群の小児と家族への看護 (臨床看護師) * 川崎病の小児と家族への看護 * ネフローゼ症候群の小児と家族への看護 急性白血病の小児と家族への看護 (臨床看護師)</p> <p style="text-align: center;">*は事例展開</p>
<ol style="list-style-type: none"> 1. 行動範囲を拡大する働きの障害 2. 人間を統合する脳の働きの障害 3. 人間を統合する脳の働きの障害 4. 生命の連続性を維持する働きの障害 5. 6. 食物を消化・吸収する働きの障害 7. 生命を維持する働きの障害 8. 生命の連続性を維持する働きの障害 9. 10. 生命を維持する働きの障害 11. 12. 内部環境を維持する働きの障害 13. 統一体を支える血液の破綻による障害 14. 終末期の小児と家族への看護 15. 筆記試験 	<p>紫斑病の小児と家族への看護 てんかんの小児と家族への看護 (臨床看護師) 発達障害のある小児と家族への看護 口唇口蓋裂の小児と家族への看護 (臨床看護師) * 鎖肛の小児と家族への看護 ファロー四徴症の小児と家族への看護 (臨床看護師) ダウン症候群の小児と家族への看護 (臨床看護師) * 川崎病の小児と家族への看護 * ネフローゼ症候群の小児と家族への看護 急性白血病の小児と家族への看護 (臨床看護師)</p> <p style="text-align: center;">*は事例展開</p>										
評価法	課題(個人・グループワーク)への取り組み姿勢・課題提出内容、筆記試験を総合して評価する。										
受講生への要望	<p>事例から、その発達段階の特徴や健康障害から看護過程の展開を進めながら看護を考えていきます。小児の反応から発達の理解をし、子どもと家族のおかれている状況や環境を的確に判断し、こどもの権利を守りながら小児や家族へのかかわりを考えてください。また、本科目で取り上げている健康障害の種類は、小児看護の展開Ⅰに比べて難しくなります。小児期の特徴を踏まえて健康の段階に応じた看護も学んでください。さらに、臨床看護師からの講義を10時間設けています。実際に入院している小児の貴重な事例を聞かなかで3年次の実習をイメージしながら関心をもって受講してください。</p>										
テキスト	<p>書名／著者名／発行所</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ナーシンググラフィカ 小児看護学①「小児の発達と看護」 ／中野 綾美 他／メディカ出版 2) 新改訂写真でわかる小児看護技術アドバンス／インターメディカ ／中村 友彦 他／メディカ出版 3) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学②「小児臨床看護各論」 ／奈良間 美保 他／医学書院 4) こどもの病気の地図帳／鴨下 重彦 他／講談社 										
参考文献	<p>書名／著者名／発行所</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 小児看護学② 健康障がいをもつ小児の看護／松尾 宜武他／メヂカルフレンド社 2) 小児看護学概論 子どもと家族に寄り添う援助／二宮 啓子 他／南江堂 										

必修科目(16)

科目	母性看護学 母性看護の展開Ⅰ	単位	1	時間数	30	開講期	2年前期	担当者	助産師:脇田 由紀子
----	-------------------	----	---	-----	----	-----	------	-----	------------

講義の概要および学習目標	<p>母性のライフサイクルの思春期・成熟期に焦点を当て、思春期を母性機能を発揮する準備段階と捉え、その特性と、保健指導・看護の必要性を学ぶ。また、成熟期においておこりやすい健康障害とその看護について学んでいく。成熟期では、マタニティサイクルに焦点をあて、妊娠期における生理的変化を理解し、社会情勢も踏まえて現代女性の特徴をとらえたうえで母子ともに健全に過ごすための看護について学ぶ。</p> <p>《学習目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 母性のライフサイクルにおける思春期・成熟期の特徴を理解し、各期に必要な指導援助について学ぶ 2 妊娠・分娩(胎児含む)期の生理変化について理解する 3 妊婦の身体・心理・社会的変化に応じた看護を理解する
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 思春期について 思春期の身体的・心理的・社会的特徴 2. 成熟期の身体的・心理的・社会的特徴 3. 思春期の健康障害と看護 4. 成熟期の健康障害と看護 5. 妊娠の生理 6. 胎児の発育 7. 妊娠に伴う母体の変化と心理的变化 8. 妊婦健康診査・関係法規 9. 妊娠期の保健指導 10. 演習 : 妊娠期に必要な看護技術
評価法	出席状況、課題・演習への取り組み状況、筆記試験を総合して評価する。
受講生への要望	<p>母性看護の展開Ⅱ・Ⅲで学ぶ内容の基礎となる講義内容です。 興味や関心をもって授業に臨んでほしい。 また、母性看護学実習につながる科目になります。 授業内容を丁寧に振り返り、知識・技術を身につけてほしい。</p>
テキスト	<p>書名／著者名／発行所</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ナーシンググラフィカ 母性看護学①「概論・リプロダクティブヘルスと看護」 ／中込 さと子 他/メディカ出版 2) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ「母性看護学各論」／森 恵美 他/医学書院 3) 根拠と事故防止からみた母性看護技術／石村 由利子 他編集/医学書院 4) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ「女性生殖器」／末岡 浩 他/医学書院 5) 生涯人間発達論 第3版／服部 祥子/医学書院
参考文献	<p>書名／著者名／発行所</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ウエルネスから見た母性看護過程／佐世 正勝 編集/医学書院 2) 病気が見える⑩「産科」／岡庭 豊 監修/メディックメディア 3) 母性看護学Ⅱ「マタニティサイクル」／大平 光子他 編集/南江堂

必修科目(17)

科目	母性看護学 母性看護の展開Ⅱ	単位	1	時間 数	30	開 講 期	2年 後期	担 当 者	助産師:杉山 加苗 保健師
講義 の 概 要 お よ び 学 習 目 標	<p>母性看護の展開Ⅱは、分娩期・産褥期・新生児期の看護を学ぶ。分娩期・産褥期は、妊娠期から変化した身体が、生理的変化を起こす時期である。また、新生児期においては、出生後の生理的変化を起こしながら、胎外生活に適応していく時期である。これらの時期においては、生理的変化のメカニズムを理解しながら、心身ともにより良い状態へとなるよう看護することが必要となる。また、新生児への看護援助は、授乳・新生児の世話など母子一体と捉え、家族も含め、幅広い視点から関わりが必要となる。</p> <p>《学習目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 分娩期から産褥期における生理的変化および心理・社会的特性を理解する 2 分娩期から産褥期における看護について理解し、必要な看護技術を身につける 3 新生児期の生理的変化を理解する 4 新生児期における看護について理解し、必要な看護技術を身につける 5 母性を取り囲む社会的環境を知り、母子を支えるために必要な保健医療福祉サービスについて理解を深める 								
講義 内 容	<ol style="list-style-type: none"> 1. パースプラン 2. 分娩第1期の看護 3. 分娩第2期の看護 4. 分娩第3期の看護 5. 分娩第4期、出生直後の母子への看護 6. 産褥期の看護 ①退行性変化と看護 7. 産褥期の看護 ②進行性変化と看護 8. 産褥期の看護 ③母乳育児支援 9. 新生児の生理的変化 10. 新生児期の看護 11. 産褥期・新生児期の看護:事例展開 12. 演習 褥婦への退院指導・新生児の日常生活援助 								
評 価 法	出席状況、課題・演習への取り組み状況、筆記試験を総合して評価する。								
受 講 生 へ の 要 望	妊娠・分娩・産褥・新生児は切り離して学ぶことはできません。母性看護の展開Ⅰで学習した内容と関連させて学んでほしい。また、授業で用いた資料等は整理し、次の授業に活かせるようにしてほしい。								
テ キ ス ト	<p>書名／著者名／発行所</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ナーシンググラフィカ 母性看護学①「概論・リプロダクティブヘルスと看護」 ／中込 さと子 他/メディカ出版 2) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ「母性看護学各論」／森 恵美 他/医学書院 3) 根拠と事故防止からみた母性看護技術／石村 由利子 他編集/医学書院 4) その他 授業時に資料配布 								
参 考 文 献	<p>書名／著者名／発行所</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 周産期ナーシング／村本 純子 他/HITOKAWA出版 2) ウエルネスから見た母性看護過程／佐世 正勝 編集/医学書院 3) 病気が見えるシリーズ⑩「産科」／岡庭 豊 監修/メディックメディア 								

必修科目(18)

科目	母性看護学 母性看護の展開Ⅲ	単位	1	時間数	15	開講期	3年前期	担当者	助産師:杉山 加苗 看護師:中村 泉
----	-------------------	----	---	-----	----	-----	------	-----	-----------------------

講義の概要および学習目標	<p>母性看護学実習開始前に代表的な周産期の健康障害を中心に、病態生理とつなげながら看護を理解する。実習終了後、更年期・老年期に引き起こる女性の身体的・心理的・社会的変化の特性と看護の実際を学ぶ。また、母性看護概論、母性看護の展開Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを通じて女性のライフサイクルにおける母性看護の役割について、自己の考えを深めていく。</p> <p>《学習目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 妊娠・分娩・産褥期における異常時の看護について理解する 2 更年期・老年期の身体的・心理的・社会的変化に合わせた看護について理解する
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 周産期の異常の看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 切迫早産・妊娠高血圧症候群の妊産褥婦の看護 2) 腹式帝王切開術を受ける妊産褥婦の看護 3) 低出生体重児の看護 2. 更年期の特徴と看護 3. 老年期の特徴と看護 4. 母性看護の役割
評価法	筆記試験 ・ 出席状況 ・ レポート
受講生への要望	<p>この科目は4月に周産期の異常について、母性看護学実習終了後、7月に更年期、老年期の看護を学習する。全7回の講義終了後に終了試験を行う。周産期の異常の理解は母性看護の展開Ⅰ・Ⅱの学びと、病態生理学Ⅳの知識が基本となる。学んだことを復習し、講義に臨んでほしい。</p>
テキスト	<p>書名／著者名／発行所</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 新体系看護学全書 母性看護学①「母性看護学概論 ウィメンズヘルスと看護」 ／新道 幸恵／メヂカルフレンド社 2) ナーシンググラフィカ 母性看護学②「母性看護の実際」 ／小林 康江 他／メディカ出版 3) ナーシンググラフィカ 母性看護学③「母性看護技術」 ／荒木 奈緒 他／メディカ出版 4) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ「女性生殖器」／末岡 浩 他／医学書院
参考文献	<p>書名／著者名／発行所</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ウエルネスから見た母性看護過程／佐世 正勝 編集／医学書院 2) 病気が見える ⑩「産科」／岡庭 豊 監修／メディックメディア 3) 病気が見える⑨「婦人科 乳腺外科」／井上 裕美 他監修／メディックメディア

必修科目(19)

科目	精神看護学 精神保健論	単位	1	時間数	30	開講期	2年 前期	担当者	田辺 肇
----	----------------	----	---	-----	----	-----	----------	-----	------

講義の概要および学習目標	<p>保健と福祉の結びつきがますます高まってきている看護実践におけるこころのケアについて、理論的・実践的な諸問題について理解する。</p> <p>特に以下の点に焦点を当てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神看護とこころのケアについての考えと援助のニーズ(と対象)の時代的变化 ・専門家(対人援助専門職者)の「こころ」のとらえ方と関わり方 ・さまざまな現場における精神看護実践の展開(看護師の役割の拡がり) ・医療、看護と精神保健福祉実践の歴史 ・入院患者の処遇と人権擁護
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神障害と精神保健の考え方①: 精神保健活動の内容・対象・担い手、予防とレジリエンス 2. 精神障害と精神保健の考え方②: 障害と人権: 生活モデルとエンパワメント 3. 心のモデル①: 生物学的モデル・精神力動的モデル(エリクソンの漸成発達理論・ポウルビーの愛着理論) 4. 心のモデル②: 行動論(学習理論)・体験過程論(ロジャースの自己論)・情報処理モデル(ピアジェ発生的認識論) 5. 心のモデル③: 家族システム論・危機理論・ストレス理論 6. 各領域でのメンタルヘルスの課題・施策①: 家族 7. 各領域でのメンタルヘルスの課題・施策②: 学校・職場 8. 各領域でのメンタルヘルスの課題・施策③: 地域・災害・医療 9. メンタルヘルス各論①: DV・引きこもり・ハラスメント・自殺 10. メンタルヘルス各論②: 不登校・いじめ・自傷 11. メンタルヘルス各論③: 虐待・犯罪・非行 12. メンタルヘルス各論④: アルコール・薬物依存・ギャンブル依存 13. 精神保健福祉の歴史と課題 14. 入院患者の処遇と人権擁護・精神看護ケアの倫理 15. 試験まとめ
評価法	<p>授業への積極性(10%)、試験(選択肢から選ぶ客観試験)(90%)</p>
受講生への要望	<p>毎回レスポンスシート(意見、質問、感想)の提出をしてもらい、それに応えながら講義を展開します。</p> <p>皆さんが積極的にいろいろなことに関心をもって取り組んでいただけると、講義も盛り上がるので、よろしくお願いします。</p>
テキスト	<p>書名／著者名／発行所 精神看護学Ⅰ「精神看護学概論/精神保健」／岩崎・渡辺 編／メヂカルフレンド社</p>
参考文献	<p>書名／著者名／発行所</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 精神看護学「精神保健」／太田 保之 他／医歯薬出版 2) 精神看護学Ⅰ「精神保健学」／吉松 和哉他／ヌーヴェルヒロカワ

必修科目(20)

科目	精神看護学 精神看護概論	単位	1	時間数	15	開講期	3年前期	担当者	看護師:赤堀 美智子
講義の概要および学習目標	<p>精神看護学は、誰もがこころを病む可能性がある現代社会において重要な役割をもつ看護の領域である。看護師として、こころの健康と不健康について考えていくことは、自らのこころの健康を高めることにもつながる。その上で、こころをケアしていく力を身につけていく。精神保健論や精神の疾患についての講義は終了している。それらの知識をもとに、本授業では精神看護を行う上で必要な基礎的知識を学んでいく。本講義の内容は臨地実習で活用するものを多く含んでいる。そのことを意識して主体的に取り組むことが期待される。</p> <p>《学習目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 精神看護の特徴と役割を理解する 2 看護援助方法論の枠組みを理解し、活用できるようイメージする 3 自己理解/他者理解について学び自己を振り返る 4 精神看護における倫理的・管理的な問題を考える 								
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神看護の特徴とその意義 2. 看護援助方法論の枠組み : 対人関係論・セルフケア理論 3. 看護場面の再構成ープロセスレコード 4. 精神看護における倫理的・管理的問題 								
評価法	課題レポート、筆記試験、出席状況、授業態度による総合評価								
受講生への要望	<p>こころを病む体験は、普段の生活の中でもおこりうる。そのため、授業で取り上げる事例や内容が学生自身の体験を想起させることがある。こころの問題は自己の体験と結びつけ考えてほしい。しかし、それにより自分自身が追い込まれることのないよう適切な距離を保ち授業に参加してほしい。</p>								
テキスト	<p>書名/著者名/発行所</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)系統的看護学講座 専門分野Ⅱ 「精神看護の基礎」/医学書院 2)系統的看護学講座 専門分野Ⅱ 「精神看護の展開」/医学書院 								
参考文献	<p>書名/著者名/発行所</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)看護場面の再構成/宮本真巳/日本看護協会出版会 2)精神看護学ー学生-患者のストーリーで綴る実習展開/田中美恵子/医歯薬出版株式会社 								

必修科目(21)

科目	精神看護学 精神看護の展開 I	単位	1	時間数	15	開講期	3年前期	担当者	看護師:河内 友子 精神看護専門看護師 精神科病院看護師
講義の概要および学習目標	<p>精神医療の施策として、長期入院患者の地域移行と地域への定着支援があげられる。しかし、現場での課題は大きく、精神障がい者の地域移行は困難な状態が続いている。その現状を理解するとともに、実際に活用されている社会資源やサービスについて学ぶ。また、精神障がい者を支える家族の存在についても学んでいく。家族の存在が、効果的に役割機能を果たすこともあるが、そうでない場合もある。当事者のみならず家族のおかれている実態を理解することから、地域で生活する上での家族の支援を考えていく。</p> <p>精神看護は精神科だけで行われるものではない。ゆえに精神科以外での看護、およびリエゾン精神看護についても学んでいく。看護とは、感情労働である。看護師のメンタルヘルスについて学び、自己のメンタルヘルスを考えていく機会とする。</p> <p>《学習目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 精神障がい者を支える家族の実際を知ることで、家族への支援について考える 2 地域移行の現状と社会資源・サービスについて理解し、看護の役割について考える 3 リエゾン精神看護の実際と自己のメンタルヘルスについて考える 								
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神障がい者を支える家族の実態 2. 精神障がい者を支える家族への支援 3. 地域生活と訪問看護の実際 4. 地域における精神看護 5. 生活を支えるための社会資源・サービス 6. リエゾン精神看護 7. 看護における感情労働と看護師のメンタルヘルス 8. 筆記試験 								
評価法	授業の出席状況、課題の成果、筆記試験による総合評価とする								
受講生への要望	<p>本講義は、精神看護学実習終了後の講義となります。実習での学びを活かして、精神障がい者が地域で生活するための支援および支える家族について考えていきましょう。また、看護を行っていくうえでの自己のメンタルヘルスにも目を向けていきましょう。</p>								
テキスト	<p>書名／著者名／発行所</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 系統的看護学講座 専門分野Ⅱ 「精神看護の基礎」／医学書院 2) 系統的看護学講座 専門分野Ⅱ 「精神看護の展開」／医学書院 								
参考文献	<p>書名／著者名／発行所</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 精神看護学ノート 第2版／武井麻子／医学書院 2) 感情と看護／武井麻子／医学書院 3) コミュニティ支援、べてる式。／向谷地生良、小林茂 編／金剛出版 4) 家族ケア／岡本真知子、萱間真美 編／中央法規出版 								

必修科目(22)

科目	精神看護学 精神看護の展開Ⅱ	単位	1	時間数	30	開講期	3年前期	担当者	看護師:赤堀美智子 看護師:河内 友子 精神科認定看護師
----	-------------------	----	---	-----	----	-----	------	-----	------------------------------------

講義の概要および学習目標	<p>本授業は、精神看護学実習の前後に展開される。実習前の講義では、精神障がい者の理解とその援助方法について学んでいく。学生の多くは、精神障がいを有する人との関わりを体験したことがない。そのため、関わりに不安を抱えているものも多い。そんな自己をみつめながら、具体的な援助方法を学ぶことで、精神障がい者との関わりに興味をもてることを期待する。</p> <p>実習後の講義では、精神科認定看護師や病棟看護師から臨床現場の実際を学ぶ。自らの臨地実習での体験を活用することで、精神医療および看護の学びを深めていく。そして、科学的看護論を用いて統合失調症の事例展開することで、精神障がい者の理解と急性期、慢性期に必要な看護を学んでいく。</p> <p>《学習目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 精神科看護の技術(観察・コミュニケーション)を理解する 2 精神症状と治療を理解し看護について考える 3 精神障がい者の事例で看護過程を展開する 4 精神医療の現場を知ることで、精神看護について再考する
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神科看護の技術:観察・コミュニケーション 2. 精神症状と看護:幻覚妄想状態・無為自閉状態・うつ状態・躁状態・強迫症状 摂食障害・アルコール依存症 3. 治療過程における看護:薬物療法・修正型電気けいれん療法・認知行動療法 生活技能訓練・レクリエーション療法 4. 統合失調症患者の看護過程の展開 5. 精神医療の歴史と変遷 6. 精神医療における看護管理 7. 医療観察法における看護の実際
評価法	<p>授業の出席状況、課題の成果、筆記試験による総合評価とする</p>
受講生への要望	<p>授業の前半は、臨地実習で出会うことの多い精神障がいの疾患における看護を学んでいきます。自分だったらどうか、どう感じるのか、どのようにしたらよいかなど考えていきましょう。また、後半には臨床現場の方の講義もあります。実習での体験を想起しながら学んでいきましょう。科学的看護論を使つての展開技術では、既習の知識を使つて対象の理解から看護の方向性まで捉えていきましょう。</p> <p>精神障がい者との関わりに不安をもっている人も多いと思います。そんな自分も感じ、自由に表現してください。授業の中で不安が軽減され、主体的な学びができることを期待します。</p>
テキスト	<p>書名／著者名／発行所</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)系統的看護学講座 専門分野Ⅱ「精神看護の基礎」／医学書院 2)系統的看護学講座 専門分野Ⅱ「精神看護の展開」／医学書院 3)ナースが視る病氣／薄井担子／講談社
参考文献	<p>書名／著者名／発行所</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)患者理解への看護の視点／眞田清子 他／日本看護協会出版会 2)看護のための精神医学／中井久夫／医学書院 3)援助者必携 はじめての精神科／春日武彦／医学書院 4)看護観察のキーワードシリーズ 精神科Ⅰ／宮崎和子 監／中央法規 5)看護観察のキーワードシリーズ 精神科Ⅱ／宮崎和子 監／中央法規

<令和4年度 2・3年次生履修科目>

V. 統 合 分 野

大日如来佛第六十七卷 卷之六十七

佛 代 台 經 卷 之 六 十 七

必修科目(1)

科目	在宅看護論 在宅看護概論	単位	1	時間数	30	開講期	2年後期	担当者	看護師：赤堀 美智子 退院支援専門看護師 外来看護師
----	-----------------	----	---	-----	----	-----	------	-----	----------------------------------

講義の概要および学習目標	<p>地域における医療は、「病院完結型」から「地域完結型」へと変化している。そのため人々が住み慣れた地域の中で最期まで望む生活を送るためには、看護の力が大きく期待される。本科目では、身近な地域に出向き健康な暮らしを支えているしくみに触れる。その体験をもとに地域包括ケアシステムとは何かを学び、その中で期待される看護の役割を考えていく。さらに、看護の対象である家族の暮らしにも目を向け、地域・在宅療養生活を支える家族の視点でも看護を学んでいく。直接的なケアとしての訪問看護では、社会のニーズと訪問看護の現状を知り、これからの訪問看護を創造していく。</p> <p>退院支援・退院調整の実際および外来看護について臨床現場の方の講義を受けることで、看護の継続性についての理解を深めていく。</p> <p>《学習目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 地域で健康な暮らしを支えていくためのしくみを知る 2 地域包括ケアシステムを理解し、その中で期待される看護の役割を考える 3 病院と在宅をつなぐ看護の継続性を理解する 4 訪問看護の現状および役割と機能を理解することで、これからの訪問看護ステーションを立ち上げる
講義内容	<p>* 事前課題：地域で生活する人や家族を支える社会資源</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護の変遷と社会のケアニーズ／在宅看護の対象 2. 静岡看護のある地域を探検！ 3. 地域で健康な暮らしを支えるためのしくみ 4. 在宅療養生活を支える法律と制度 5. 地域包括ケアシステムとは 地域包括支援センターの役割 6. 在宅生活を支える職種と看護の役割 7. 退院支援・退院調整の実際 8. 看護の継続性(外来看護) 9. 在宅生活を支える家族看護 10. これからの訪問看護ステーションを立ち上げる 11. 筆記試験
評価法	出席状況と授業・演習への参加姿勢、課題の成果、筆記試験による総合評価とする。
受講生への要望	<p>本科目は統合分野の科目である。ゆえに、既習の学習をもとにして学びを積み重ねる必要がある。自らが暮らす地域や静岡看護がある地域に関心を持ち、健康な暮らしを支えるしくみを主体的に学んでほしい。継続看護では、自らの臨地実習での体験と関連付けて学びを深めてほしい。</p> <p>グループワークでは、自己の考えを述べ他者の考えも尊重する姿勢をもって参加してください。そして、チームの力を高めながら、演習の目的、目標に合った成果をあげてほしい。</p>
テキスト	<p>書名／著者名／発行所</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ナーシング・グラフィカ ①地域・在宅看護論 地域療養を支えるケア／臺有 桂 他／メディカ出版 2) ナーシング・グラフィカ ②地域・在宅看護論 地域療養を支える技術／臺有 桂 他／メディカ出版
参考文献	<p>書名／著者名／発行所</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 系統看護学講座 統合分野 在宅看護論／秋山 正子 他／医学書院 2) 新版 在宅看護論／編著 木下 由美子／医歯薬出版

必修科目(2)

科目	在宅看護論 在宅看護の展開 I	単位	1	時間数	30	開講期	3年前期	担当者	看護師:梶山 木綿 ケアマネジャー 保健師・在宅診療医
講義の概要および学習目標	<p>地域包括ケアシステムが構築される中、在宅看護の重要性が増している。在宅看護は、在宅で療養する人々に対して、彼らが望むQOLを維持・向上させることを目的に、本人および家族に対して行われる看護活動である。</p> <p>初めに在宅看護の対象を理解し、対象が望む場所で安心して暮らし続けることを支える訪問看護について学ぶ。また、その人が望む暮らしの継続を支えるためにかかわる多職種の役割を知り、多職種連携・協働について考える。さらに、地域包括ケアシステムを担う医療の実際と行政の保健活動の実際を知るとともに、どのように多職種と連携を図っているのかを知り看護の役割について考える。</p> <p>《学習目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 在宅看護の対象を理解する 2 在宅療養を支える訪問看護について理解する 3 在宅看護におけるケアマネジメントについて理解する 4 多職種との連携について知り、看護の役割について考える 5 地域における医療や保健活動の実際について理解する 								
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護における訪問看護 2. 援助関係成立のための基本的姿勢 3. 療養者が安心して暮らせるための支援 グループワーク、ロールプレイ 4. ケアマネジメントの実際(ケアマネジャー) 5. 多職種との連携 6. 在宅看護における倫理的問題 認知症のある療養者の事例を通して 7. 在宅看護におけるリスクマネジメント 8. 地域医療の実際(在宅診療医) 9. 地域保健活動の実際(保健師) 								
評価法	出席状況と授業・演習への参加姿勢、筆記試験による総合評価とする。								
受講生への要望	<p>在宅看護論は統合分野科目であることから、既習の学びを統合し思考して学習を深め、在宅看護論実習につなげてください。</p> <p>様々な価値観や対象の理解を深めるために、グループワークや演習には主体的に取り組んでください。またその時に感じ考えたことや自分だったらどう考えるのかなど、積極的に伝え全体で共有していきましょう。</p>								
テキスト	<p>書名／著者名／発行所</p> <p>1)ナーシング・グラフィカ 在宅看護論 地域療養を支えるケア／臺 有桂 他 ／メディカ出版</p>								
参考文献	<p>書名／著者名／発行所</p> <p>1)写真で分かる訪問看護／押川 眞喜子／インターメディカ</p>								

必修科目(3)

科目	在宅看護論 在宅看護の展開Ⅱ	単位	1	時間数	15	開講期	3年 前期	担当者	看護師:松永 しのぶ
----	-------------------	----	---	-----	----	-----	----------	-----	------------

講義の概要および学習目標	<p>地域看護の中核を担う在宅看護の実践には、まず在宅で療養する人とその家族の思いやおかれている状況を理解することが必要である。その上で、対象の生活環境を把握し、対象とともに在宅で生活していることの意味を考え、その環境下で療養生活上の問題を判断していく。本講義では、在宅で療養する人とその家族の事例を展開し、在宅療養生活をイメージしながら看護過程を学んでいく。そこから、実際の日常生活援助技術を思考し、対象に合った援助技術を習得していく。この体験は、次に続く在宅看護論実習の場で活かされていくこととなる。また、在宅で人生の最終段階を迎える療養者や家族への医療やケアのあり方を学ぶことで、その看護についての考えを深めてほしい。</p> <p>《学習目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 日常生活行動を支える援助技術について理解する 2 在宅療養生活を支える看護過程を展開する 3 在宅で人生の最終段階を迎える療養者や家族の看護について考える
講義内容	<p>* 事前課題:「福祉用具の見学と体験」(場所:リハパーク)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日常生活行動を支える援助技術 2. 事例展開:長期臥床の状態にある療養者と家族の看護 3. 在宅で行う日常生活援助 (演習:在宅で行う洗髪技術) 4. 在宅で人生の最終段階を迎える療養者や家族の看護 5. 筆記試験
評価法	<p>課題の成果、出席状況と演習の取り組み、筆記試験による総合評価とする。</p>
受講生への要望	<p>在宅看護論は、統合科目であることから既習の学びを統合して思考していくという学習姿勢で臨んでください。また、看護技術として習得できるようグループワークや演習など主体的に取り組んでください。さらに、人生の最終段階とは何か、その段階を在宅で迎えるにはどのような看護が必要か、自らの考えを深めていってください。</p>
テキスト	<p>書名/著者名/発行所 1)ナーシング・グラフィカ 在宅看護論 地域療養を支えるケア/臺 有桂 他/ メディカ出版</p>
参考文献	<p>書名/著書名/発行所 1)こんなに簡単 ステキに家庭介護入門/紙屋 克子/ナーシングサイエンスアカデミー 2)写真で分かる訪問看護/押川 真喜子/インターメディカ 3)いのちつづく「みとりびと」① 恋ちゃんはじめでの看取り/國森 康弘/農文協 * 他シリーズあり</p>

必修科目(4)

科目	在宅看護論 在宅看護の展開Ⅲ	単位	1	時間数	15	開講期	3年前期	担当者	看護師:松永 貴子 訪問看護師
----	-------------------	----	---	-----	----	-----	------	-----	--------------------

講義の概要および学習目標	<p>入院期間の短縮化、地域包括ケアシステムの構築を進める社会情勢において、医療依存度の高い療養者が在宅で療養する機会が増えている。病状の維持や悪化予防の視点で行う身体管理や医療機器の管理が重要となる。また、その役割を家族も担えるよう支援することが重要である。そこで、本科目では難病の事例を用いて、生活を支える看護を学ぶ。</p> <p>また、医療者が常に行かない在宅において、家族が中心となって医療処置を含む介護を行う上での不安や負担軽減、自己決定のプロセスにおける支援についても学ぶ。</p> <p>《学習目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 難病療養者と家族の特徴を理解し、医療機器の管理と生活を支える看護について学ぶ 2 在宅において療養する療養者および家族への自己決定を支える看護について学ぶ
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 難病で療養する対象者とその家族の特徴 2. 在宅で療養している難病の療養者・家族を支える看護と実際 3. 医療管理・医療処置を必要とする療養者への看護と実際 4. 自己決定を支える看護
評価法	出席状況と授業・演習への参加姿勢、提出課題、筆記試験による総合評価とする。
受講生への要望	<p>既習の学習を活かして看護を考えます。これまで学んできたことや体験したことから、療養者とその家族の特徴をとらえ、様々な視点で看護を考えてほしい。基礎となる知識に新たな学びを統合して考えることを意識してください。人間にとって重要な権利についても考える機会となるため、自分の看護についての考えや倫理観なども深めてください。</p>
テキスト	<p>書名／著者名／発行所</p> <p>1)ナーシング・グラフィカ 在宅看護論 地域療養を支えるケア／臺 有桂 他 ／メディカ出版</p>
参考文献	<p>書名／著者名／発行所</p> <p>1)写真で分かる訪問看護／押川 眞喜子／インターメディカ</p>

必修科目(5)

科目	看護管理	単位	1	時間数	15	開講期	3年後期	担当者	看護師：瀧 泉 看護師：杉山 加苗 静岡病院看護部長
----	------	----	---	-----	----	-----	------	-----	----------------------------------

講義の概要および学習目標	<p>看護管理とは、新しいヘルスケアシステムを創造し、チームや組織、システムを動かしていく活動である。活動するためには、看護をしくみとしてとらえ、それがどのようになっているのか、問題はなにか、どのような改善策があるのか、どのようにすればより良い看護ができるのか等追求し、多数の人々が同時に働くための技の習得が必要である。</p> <p>この科目では、看護マネジメントに必要な基礎的知識と技について学ぶ。また、チーム医療を担う一人の看護師として、看護倫理について考察する。</p> <p>多様な文化的背景の理解から、国際看護の視点でも看護について考察する。</p> <p>《学習目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 看護マネジメントに必要な基礎的知識を理解する。 2 より良い看護を提供するための組織やチームを、看護の仕組みとしてとらえ理解する。 3 国際看護を学ぶ意義を考える。
講義内容	看護とマネジメント 看護ケアのマネジメント 看護サービスのマネジメント 看護管理のプロセス 組織の成り立ちと病院組織の基本的構造 看護管理の実際 看護職の職業倫理 国際看護
評価法	課題レポート 筆記試験 出席状況
受講生への要望	授業は、進度に応じた課題学習やグループワークがあるため欠席しないこと。
テキスト	書名／著者名／発行所 1)看護学原論／高橋 照子 編集／南江堂 2)ナーシンググラフィカ 看護管理／加藤 和子 編集／メディカ出版
参考文献	書名／著者名／発行所 授業の中で紹介していきます。

必修科目(6)

科目	医療安全	単位	1	時間数	15	開講期	3年後期	担当者	看護師：赤堀 美智子 病院医療安全室看護師 感染管理認定看護師
講義の概要および学習目標	<p>臨床において、対象および自己の安全を守ることは看護の責務である。この科目では対象が安心して医療が受けられるように、そこに潜む事故のリスクを査定し、リスクを回避して安全で適切な看護実践のための知識・技術を学ぶ。</p> <p>医療安全の基礎的知識を身につけるとともに、医療事故を論理的思考により分析する力、チームの一員としてメンバーシップを発揮できる力、および高いコミュニケーション能力を身につけることが求められる。現場の現象に目を向けながら、医療安全活動に積極的に取り組む姿勢をもてるよう学習していく。</p> <p>《学習目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 人の行動に潜むヒューマンエラーを理解し、自分もヒューマンエラーを起こす存在であることが自覚できる 2 看護実践に潜む事故要因をアセスメントできる 3 医療チームの一員として安全のための対策とルールを厳守する必要性が理解できる 4 医療事故を未然に防ぐために、看護場面での自分の行動を考えることができる 5 看護の対象の日常生活場面におけるリスクを回避する方法を考えることができる 6 医療安全における看護職の責任が理解できる 								
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全とは 2. 医療事故の構造と医療安全への取り組み 3. 事故発生の要因と事故防止の視点 4. 医療安全対策の実際 演習 — 危険予知トレーニング 5. 感染対策の実際 								
評価法	授業出席状況、授業参加態度、課題レポート、筆記試験								
受講生への要望	<ul style="list-style-type: none"> ・授業は進度に応じた課題学習やグループワークがあるため欠席しないこと。 ・新聞やニュースを見る等、社会情勢にも目を向けてほしい。 ・卒業を目前に控えた時期の開講であるため、臨床で看護師として働く自己の姿をイメージしながら授業に主体的に臨んでほしい。 								
テキスト	書名／著者名／発行所 ナーシンググラフィカ ①「医療安全」／松下由美子 ほか／メディカ出版								
参考文献	<p>書名／著者名／発行所</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)よくわかる看護職の倫理綱領／峰村 淳子、石塚 睦子／照林社 2)医療安全ワークブック第4版／川村 治子／医学書院 								

必修科目(7)

科目	災害看護	単位	1	時間数	30	開講期	3年前期	担当者	看護師: 松永 貴子 医師: 深澤誠司・臨床看護師 救命救急認定看護師
----	------	----	---	-----	----	-----	------	-----	-------------------------------------------

講義の概要及び学習目標	<p>災害とは、異常な自然現象や人為的原因により、人命や人々の社会生活が受ける被害のことである。この科目では、災害の中でも最も身近な自然災害を中心に学ぶ。</p> <p>災害看護において原点におきたいことは、「人間」と「地域」と「暮らし」の視点である。</p> <p>災害時の被災者支援のみならず、防災の視点や地域全体への介入など、生活者を守る災害看護が果たす役割が重要となっている。発災からの時間経過に伴い変化する対象者への医療ケア、生活にかかわるニーズを判断し、災害サイクルに合わせた看護師の役割と看護活動を提供するための知識・技術を学ぶ。</p> <p>《学習目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 災害看護の基礎となる災害の歴史・災害の特徴・法律や制度について理解する 2 災害サイクル各期の特徴、対象の健康障害の特徴をふまえた災害看護の役割と活動について理解する 3 災害時の救護活動に必要な技術について、基本的知識と技術を身につける
講義内容	<p>災害看護とは 災害サイクルに沿った看護活動 災害種類別・対象別による被害・疾患の特徴 災害医療における連携支援システム 災害サイクル別の看護 静岡の防災対策 災害看護の実際 トリアージ 災害看護の実際 傷病者の応急手当 一次二次救命処置・包帯法・搬送技術 災害看護の実際 配慮を必要とする人への支援と看護 避難所運営ゲーム 災害を受けた人へのこころのケア 終了試験</p>
評価法	<p>終了試験・授業態度・演習への参加度</p>
受講生への要望	<p>この授業に参加することで、災害の現場をイメージし、このような状況で何をしたらいいのか、何ができるだろうかと考える機会を持ってほしい。</p> <p>災害という場における看護師の役割について知り、何を大切にして看護を提供するかについて考えていきましょう。そのためにも、日ごろから、社会の状況について興味をもって情報収集してください。また、この科目では多くの演習を行います。積極的に取り組み、たくさんのことを考え、学ぶ機会にしましょう。</p>
テキスト	<p>書名／著者名／発行所</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ナーシンググラフィカEX ⑤ 「災害看護」／メディカ出版 2) 系統看護学講座 専門分野 I 「基礎看護技術Ⅱ」／医学書院
参考文献	<p>書名／著者名／発行所</p>

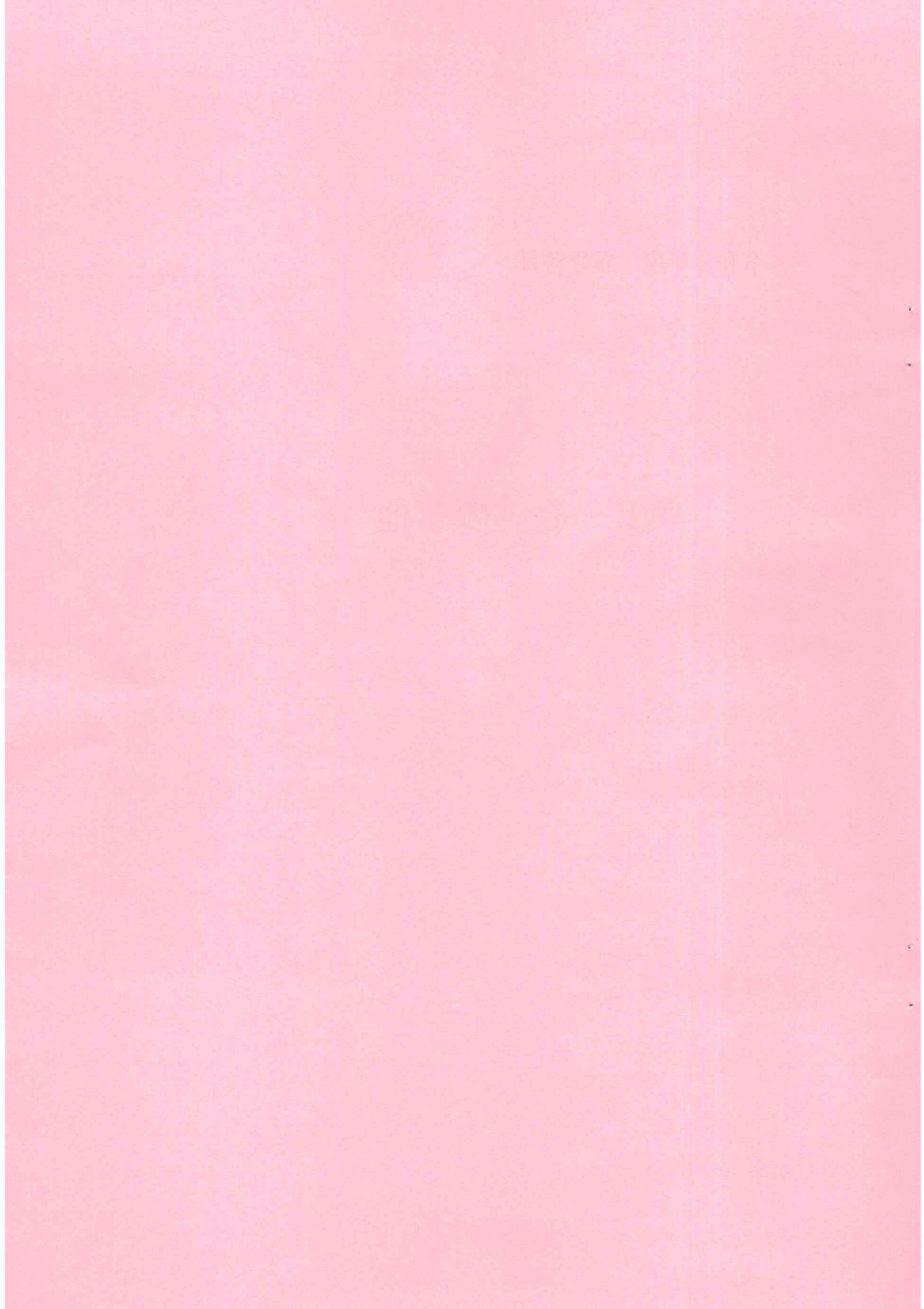
必修科目(8)

科目	看護研究	単位	1	時間数	30	開講期	3年前期	担当者	看護師:松永 貴子 看護師:矢野 玲枝
----	------	----	---	-----	----	-----	------	-----	------------------------

講義の概要および学習目標	<p>看護研究はよりよい看護を実践するための知見を手に入れるために行うものである。つまり、研究を積み重ねていくことは看護ケアの改善に欠かせないことであり、看護研究は理論と実践が結びついていなければならない。また、研究は一部の研究者だけが行うものではなく、現場で働く看護師にこそできることであり、改善のためにしなければならない職務のひとつとなっている。この科目では研究の成果が実践の改善に貢献している報告やすぐれた事例研究レポートを紹介しながら看護を研究する目的、研究の方法について学んでいく。</p> <p>また、事例研究は、「自己の実践を振り返って自己評価する方法」を取り上げる。後期にあるD-2実習(発展看護実習)で実践した看護を事例研究としてまとめ、発表する機会をもつことで、自己の看護観をさらに深めていく。</p> <p>《学習目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 看護研究の意義・方法を学ぶ 2 実践した看護を事例研究としてまとめ発表することで、自らの看護観を深める
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護における研究の役割 <ul style="list-style-type: none"> － 研究とは何か、看護を研究する目的、看護研究における倫理的配慮 2. 看護実践と看護研究 <ul style="list-style-type: none"> － 看護専門職への学習課題、看護を研究するための方法 3. 事例研究 <ul style="list-style-type: none"> － 演習:研究素材のつくり方・研究素材の構造分析・看護上の仮説とは 4. 文献学習、文献検討 5. プレゼンテーションの方法 6. 実習で実践した看護の事例研究
評価法	出席状況、課題に取り組む姿勢(授業・グループワークへの参加態度) 課題レポート 事例研究抄録と事例研究発表
受講生への要望	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2年次B実習の実習記録を教材にして事例研究の過程を体験的に学習するので準備しておく。 ・ 2年次「看護の変遷」で作成した「文献研究資料(過去に生きた先輩に聞きたいこと)」を参考にするので持参すること。 ・ 2年次「看護の変遷」終了時試験の答案用紙に書かれた看護場面の記述を教材にして学習するので持参すること。 ・ 研究への取り組みをより効果的にするために、グループワークを活用する。
テキスト	書名/著者名/発行所 <ol style="list-style-type: none"> 1)看護研究ころえ帳/李 節子/医歯薬出版株式会社 2)Nice「看護理論」-看護理論20の理解と実践への応用-/筒井 真優美/南江堂 3)Nice「看護学原論」-看護の本質的理解と創造性を育むために-/高橋照子/南江堂 4)科学的看護論 第3版/薄井 坦子/日本看護協会出版会
参考文献	書名/著者名/発行所 <ol style="list-style-type: none"> 1)看護実践から看護研究へ「看護のなかの死」から何を学ぶか/薄井 坦子 /日本看護協会出版会 2)系統的看護学講座 専門分野 I 「基礎看護技術 I」 <2004年発行 第13版第4刷> /薄井 坦子/医学書院

<令和4年度 履修科目>

VI. そ の 他



学校カウンセリング

カウンセリング	自由参加	担当者	杉浦 真澄
---------	------	-----	-------

臨床心理士の方に来ていただいています。
予約制で行っています。開室日程は、時間割で確認してください。

【場所】 本校2階 学生相談室

【開室時間】 15:00 ~ 16:30

(予約は、15:00 ~ 15:40 ・ 15:50 ~ 16:30の2回です。
予約があった場合には急を要するような特別なことがない限り予約された方のための時間となりますが、予約がない場合には飛び込みの学生さんもOKです。)

【予約方法】

* 相談室のドアの予約用紙に名前(イニシャルやマーク等、予約がわかるように記入し、予約日時に相談室にいらしてください。)

カウンセリングとは、悩みや困りごとなどがある人の相談に乗り、対話を通じて本人の成長や問題解決のお手伝いをすることです。

悩みや困りごとと言っても、「最近モヤモヤしているんだけど…」「やる気が出ないな…」「忘れっぽい(ミスが多い)」「コミュニケーションが上手になりたい」など、なんでもOKです。「先生や友達には話しにくいけど、誰かに話したい」「何か良い解決方法はないかな？」など、そんな時には相談室があることを思い出してください。一緒に考えて、少しでも成長のお手伝いができたら嬉しいです。

学生へのメッセージ



